

彼理日本紀行

第十八卷
全拾壹本

洋学文庫
文庫 8
C 235
6

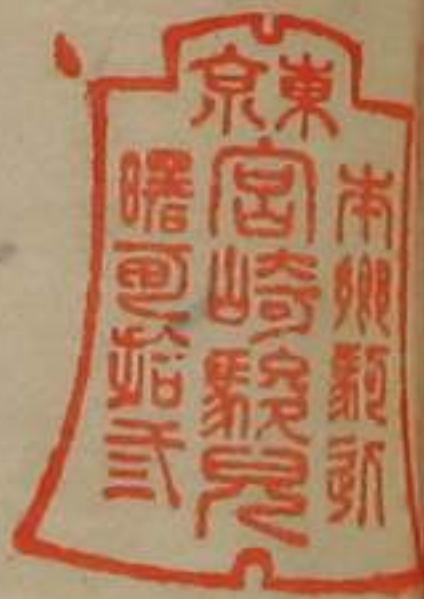


Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns. A red square seal is visible near the top center of the page.

Red square seal impression, likely a collector's or library's stamp.

Blank page with faint horizontal and vertical lines, possibly indicating a grid or a layout for text. A red square seal is visible near the bottom center of the page.

Red square seal impression, likely a collector's or library's stamp.



彼理日本紀行卷之十九

手塚好盛律藏
手塚節藏
工藤巖藏

彼理横濱ニ碇泊シ日本ノ高官ト會話ノ條
江戸海ノ西畔江戸湾口ヨリ其都府ニ至ル迄無
教ノ街坊村落給繹ナシテ掃地シケル而シテ其
村落ノ絶タル処ニハ高キ丘陵アリテ自カラ屋
宇ヲ立ルニ便ナラス然ルニ此陵上ニ砲塚ヲ構



へ巨砲ヲ連子ヲ具形勢較堅固ナレト墩上ノ砲
多クハ大ナラス且ツ粗製ナレバ其実ハ畏ル、
ニ足ラサリケリ横濱ハ上ニ述ル所ノ村落ノ隨
一ニシテ吾國ノ地圖ニ於テ横濱港ト名ケタル
港頭ニアリ此横濱港ハ神奈川ヨリ江戸ノ外坊
呂川ニ至ル迄北東ニ蔓延スル地ノ咽喉即チ其
東南ノ岬内ヲ去フ而シテ横濱港ニハ江戸ニ近
ク船舶常ニ多ク碇泊セリ此横濱港ノ前ハ廣ク
シテ我々諸船ヲ一字形ノ戦隊ニ連子得ヘシ此
船ノ砲ヲ以テ海岸ノ全面ヲ攻撃スルニ足レリ

此時提督九双ノ軍艦ヲ下條ノ如ク連子タリ其
列々ハ蒸氣船三双先ツ國旗ヲ備フルポトハタ
シシスコイハンナ「シシムレ」ナリ次ニ張帆船
六双「マセドニ」ン「ハンダレ」「サラトダ」ソウハ
ントン「レキシ」レトシ「シャブレ」ナリ此「シャブレ」船ハ
後日ニ後レ来リテ船隊ニ如リハ双ノ軍艦ニ薪
水食料等ヲ給センカ島ノニ幕三月十九日江戸
港ニ来着セリ○神奈川ハ一大驛ニシテ此時我
國ト條約ノ度ニ関ル日本ノ官吏皆此駅ニ旅宿
セリ此駅ノ前面ニ我船隊ヨリ砲ヲ放テ其九ノ

達スヘキ処マテ我カ船ヲ近ク得ヘキ時ニハ我
カ提督此駅ヲ以テ應接ノ地ト定メント思ヘリ
然ルニ此駅ノ海水是夕浅クシテ近ツクヘカラ
ナルカ故ニ彼理加此舟薄可痛及ヒ阿丹西氏ヲ
遣ヒテ横濱ヲ検査セシメシニ我カ船隊ヲ碇泊
スルニ良港ナルヲ報シヌレハ彼理此地ヲ以
テ條約ノ地ト定メタリシナリ○爰ニ日本官吏
及ク之レニ屬スル多クノ人莫ト提督ト應接ノ
為ニ造リタル館舎ヲ巫人等ハ條約館ト名ケタ
リ此館海岸ノ平地ニアリテ神奈川ヲ距ルコト

巫國畢法ニテ三里高川ヲ距ツコト五里江戸ノ
南ニ在ル外坊ヲ隔ツルコト九里ナリ此館舎ハ
急ニ板樹ヲ以テ作り彩色ヲ施ストナシ屋根ハ
白色ナリ其基礎甚廣クシテ四十尺ヨリ五十尺
ニ至ル應接廳アリ又多クノ子院班列セリ其兩
側ニハ黄色ノ布幕ヲ張り黑色ニ画キタル幌子
ヲ以テ直角ニ分テリ館外ノ壁ニ黒幕ヲ張り鮮
明ナル記章アリ是第三級ノ官吏伊澤義作守ノ
記章ナリトイヘリ○日本官吏ト應接ノ日ニ定
メタル第三月八日ニナリタレハ昧且ヨリ横濱

ニテハ大ニ繁冗セル体ニツ見エケル是レ即チ
應接會合ノ備具ナリ日本ノ備夫等ハ遠ク端及
ヒ自餘ノ美ナル器物ヲ携へ来リテ條約館ヲ飾
リタリ館舎ノ前ニハ二根ノ竿ヲ立テ白色ノ綿
布ニ純紅ノ記章ヲ附タル旗ヲ揚タリ又館舎ノ
屋上ニ長キ一竿ヲ立テ之レニ燭臺ノ上部ニ齊
シキ圓キ旌飾ヲ設ケ大ナル絹布ノ絹組ヲ附タ
リ周圍ヨリ綿布ノ幕ヲ以テ圍ミ全ク四面ノ景
色ヲ遮リ實ニ恰モ俘虜ノ如ク為スト見ヘタ
リ是ニ於テ彼理船中ヨリ横濱ノ形勢ヲ一見シ

徑ニ一吏ヲ海岸ニ遣シテ問テ曰ク備具既ニ整
セシヲト日本人多量ナルニ托シテ曰ク足下ヲ
款待セント欲シヌレハ百事甚ク繁冗ナリト提
督ノ曰ク我款待ヲ望ムニ非サレモ備具全ク整
フヲ待テ上陸セント欲スルノミト日本人ハ此
言ヲ以テ諷辭ナリト思ヘリ○彼此ノ地ニ隊列ヲ
備ヘタル旗隊樂隊及ヒ槍隊ハ悉ニテ塗タル笠
ヲ戴キ鮮明ニ色澤ヲ施シタル衣服ヲ着シ赤色
ノ旗ヲ立テ光澤アル器仗ヲ帶ヒ又燦爛タル槍ヲ
携ヘタリ去歲始メテ粟濱ニ上陸セシ片ニ此ス

レハ軍隊大ナラスレテ兵卒ヲ監スル長官ニ倭
小ナルヲ用ヒス多クハ長大ニシテ位階ナル臣
下ヲ撰ヒ本地ノ軍務ヲ勤メシメタリケリ應接
場ニハ塙ヲ設ケ境畧ヲ作リテ見物ヲ禁スト雖
モ横濱近地ノ街坊村落ヨリ衆人雲集シ新説ヲ
貪ル好事漢等打聞キタル四面ヨリ雜揉シテ見
物セリ茲ニ又兩三名ノ官吏邊ク應接場ノ周圍
ヲ巡行シテ傭夫ヲ指揮シ多クノ日本人ノ雜沓
スルヲ制シケルノ既ニシテ日本ノ一大船神奈川
近傍ヨリ本港ニ入タリケリ此船ノ製造最モ

美ニシテ真甲板及ヒ柁檣ハ船体ノ上ニ突起シ
其狀亞國ノ西河ニ浮フル蒸氣船ニ髣髴タリ而
シテ三箇ノ檣上ニハ鮮明ニ色沢ヲ施セル旗ヲ
翻シ又甲板ノ上ニハ班色ノ天幕ヲ覆ヒタリ此
船ハ日本ノ高官ヲ載セ来リタレハ既ニ海岸ニ
着セシ時其高官及ヒ屬吏數多ク小舟ニテ遠ク
上陸セリ此時日本ノ小舟其船ニ繩ヲ附ケ艦ニ
旗ヲ立テ多ク集リ来リ横濱港ニ充滿セリ此地
方ハ冬景ナレハ本日本ハ朗晴ニシテ稍ヤ寒冷万象
爽然タル風景ナリケリ○我提督モ此回ハ日本

ニ再次ノ上陸ナレハ諸器ヲ殊ニ佳麗ニ飾リテ
日本人ニ巧精且華麗ナルヲ示スヘキ設ケラガ
レタリ是故ニ提督今命ヲ下シ船中ニ残り止リ
タル兵卒ニモ瓶ク武仗ヲ飾リテ以テ其軍艦ヲ
艦セシメ三双ノ蒸氣船ニ樂隊ヲ備ヘシメ且士
官及ヒ士卒ヲモ佳麗ニ装セシメ勢ノテ多ク上
陸ヲ催シタリ又其將校ハ綿衣及ヒ外套ヲ着シ
項帽ヲ戴キ襟飾ヲ備ヘ劍ヲ佩ヒ拳銃ヲ携ヘシ
メタリ水夫ニハ綠色ノ中衫ヲ服シ瀾袴ヲ着シ
ラ具上ニ鮑キ外套ヲ着シ高銃劍及ヒ拳銃ヲ携

ヘシメ樂人ニ至ル迄皆刀劍及ヒ銃類ヲ携ヘ藥
包子ヲ備ヘシメタリ○當三月八日ノ十一時半
半時ニ日本ノ四ニ至リケレハ我從兵ノ將校兵卒
水夫等十分ニ武仗ヲ備ヘ全兵五百又廿七双ノ
小船ニ乘リ隊長薄可南之ヲ領シテ其船ヲ一字
形ノ隊列ニ備ヘ横濱ノ海岸ニ槽寄セ夫ヨリ從
兵先ツ上陸シテ各隊ノ際ヲ隔テ輪狀ノ方陣ニ備
ヘ海軍ノ將校ハ尙未馬頭ニ在リ我數双ノ小船
ハ上陸地ノ左右ニ分レ整々トシテ船ヲ並ヘ西
邊ニ達シタリ是ニ於テ提督ハホイハタン船ヨ

リ小船ニ乗リマセドテ一船ニテ十七獲ノ祝
砲ヲ放タシメ船ヲ出シケレハ数名ノ将官尾行
シテ之ヲ送レリ此時一同ニ音楽ヲ奏シ海軍ノ
兵士十分ナル戎装ヲ以テ悉ク皆青白色ノ服ヲ
着シ燦爛タル銃剣ヲ附ク勇氣凜々トシテ備ヘ
タリシカ提督ノ来ルヲ見テ皆齊ク捧銃ノ礼ヲ
行ニ華服ニ装束セル水夫及セ部下ノ将校其前
後左右ヲ擁シテ海濱ニ進ミタリ兩側ニハ美服
シタル日本警衛ノ兵卒等旗及セ槍ヲ立テ條約
館ノ入口ニ備ヘタリ提督此兵士ノ際ヲ過リシ

時館内ヨリ日本官吏数名出テ迎ヘテ誘導セリ
如此キ隊列ニテ提督等進ミ入シ時小船ニ備ヘ
タル忽微砲ニテ日本国王ヲ祝センカ為ニ放發
スル一廿一發又林大等頭ノ為ニ十七發ヲ放テ
リ而シテ我^タボ^ハ一^ハ夕^ニ船ノ橋上ニ日本人ノ為
ニ設ケタル旗ヲ立タリ是ヨリ提督其從者ト共
ニ館内ニ入ル之ヲ見ニ一大廳ニシテ其結構造
営ハ客歳栗濱ニテ應接セシ館舎ト全ク相似タ
リ廳内ニハ厚キ藁ヲ以テ作レル席ヲ敷キ坐側
ニハ長ク廣キ椅子ヲ置テ其上ヲ赤キ毛氈ヲ以

ヲ覆ヒ其間ニ卓子ヲ居テ赤キ毛氈ヲ以テ覆
ヘリ日本ニ於テハ春光既ニ来レリト尚微寒
ナルヲ以テ窓ニハ油紙ニテ張タル障子ヲ設ケ
タレハ日光通徹シテ室内ヲ照シ適宜ノ暖氣ヲ
導キ入添ニテ黒ク塗タル木造ノ真鍮火鉢ヲ各
人ニ與ヘテ室内ヲ暖ム提督諸將及ヒ通辨官等
ハ左席ニ就ケリ又日本ノ諸官吏ハ其右席ニ就
リ此時館舎ニ上口ノ間キタル所ヨリ日本ノ高
官五名出テ来リテ右席ニ坐シケレハ附屬ノ日
本官吏皆手ヲ膝ニ置テ出席ノ間ハ此礼ヲ怠ル

事ナシ○日本高官等ノ状貌ヲ窺ヒ見ルニ高貴ノ
風彩アレ共是多クハ其服飾ノ華麗ナルヲ以テ
高貴ノ風ヲ添シナリ就中共外^ハ縮布ニシテ
佳廉鮮明ナレハ一故ノ風神ヲ助ケ又其下^シ衫ハ
我國ノ古製ノ中衫ニ髣髴タリ兩脚ニハ紗紋ア
ル袴ヲ着シ又足ニハ綿布或ハ毛布ノ白キ足袋
ヲ穿テ紐アリテ脚眼骨ヲ上ニテ結ヘリ又外套
ハ華麗ニ縫箔シテ兩袖ナク其背面ノ中部ヨリ
縦ニ分裂シテ兩刀ヲ佩シニ便スルアリ是日本
ニ於テ士人ヲ顯ハスノ徴ナリ高官數名ノ内三

人ハ白色ナル下衫ヲ着セリ是其襟ヲ見テ著シ
白衣ハ帝國日本ニ於テ最モ高貴ナル人ノ服色
ニシテ諸候以上ノ官爵ニ非サレハ之ヲ服スル
事ヲ許サストナリ林大學頭ハ高官ノ内ニテモ
第一ノ長官ナレハ切要ナル諸件ハ悉ク此人ニ
関ハラサルハ無シ此大學頭ノ年紀ハ大約五十
五歳可^{ハカリ}ニシテ容貌壯^{ツヨク}廉^ハニシテ顔色端^{ツヨク}正慈愛且^ツ
活達ナル相アリト雖又鬱憂セル形容頗ル多シ
井戸對馬守ハ方ニ五十歳可ノ人ニシテ身体肥
大且長タカシ大學頭ニ比スレハ稍勇壯ナル顔

貌アリ又伊澤義作守ハ就裡年紀若クシテ四十
歳餘ト見ケルカ面色活潑^{ツヨク}ニシテ漠然^{ボツトシク}タル形相^{シヨク}
ヲ備ヘ^レ口サリカ^カ未^モ詳^シトイヘル良名アリ日本通
詞ノ談話ニテハ義作守トイヘル人ハ外國人ト
ノ應接ニハ他人ニ越テ高見識アリ又余等ニ對
話スルカ如ク日本人ヲ所置スルニモ諸事甚ク
懇切ナリトイヘリ余等カ上陸スル時奏シタル
音樂ヲ聞テモ深ク其聲音ヲ愛セシトイヘリ鶴
殿ハ諸候以上ノ官位ニアラサレ凡民部少輔ト
称スルヲ見レハ高官ノ人ナルヘシ此人ノ顔貌ノ

腫張タル形相ハ蒙古人ニ似タリ松崎満太郎ト
称スル人アリ日本高官五名ノ第五ニ列スル人
ナリ此人ハ高官ノ位列ニ加ハレ共其職掌トス
ル所何事ナルヤ傍觀シテ謀リ知ヘカラス應接
席ニ出テハ其他ノ四人ヨリ少シ下リテ坐ラ占
メタリ此五人ノ側ニ筆記官侍坐シテ應接中ノ
談話ヲ記載セリ應接ノ一兩日前迄ハ松崎氏此
間ノ會合ニ関カルヘキヲ聞サリシカ急ニ高
議アリテ今此人ヲモ高官ノ列ニ加ヘラレタル
ト見タリ此人ハ年紀六十餘ノ老人ニテ顔色甚

々淡黄且近眼ニシテ咫尺ノ物ヲ見ニ當テモ満
面ニ雜ヲ生シ実ニ醜体ヲ顯セリ森山栄之助ハ
此間ノ會ニ於テ專ラ應接ノヲ掌リタル通詞
ナリ此人ハ嘗テ我国ノグレースル船日本海ニ来
ル人ナルヘシ高官等館内ニテ各其班席ニ就シ
時栄之助ハ常ニ林氏ノ側ニ跪キタリシカ其形
容実ニ高官ヲ尊敬スル体ニ見タリ原来日本國
ニテハ君臣上下ノ分チ甚タ嚴ニシテ上ハ天子
ヨリ下ハ庶人ニ至ル迄衆人皆其長上ヲ尊敬ス

ル風俗ナリ衆之助ハ長上ヲ尊崇スルノ道ニ最
モ精シキ者ニシテ高官ノ前ニ侍ヘル時ニハ必
ス腰ヲ折リ首ヲ垂レ蒲伏シテ其命ヲ奉シ其已
ヲ卑フシテ上ヲ尊フノ形容實ニ筆記スルニ堪
サリケリ○日本官人ヨリ告ケルハ此廳ヲ出テ
別室ニ赴キ日本人亞人僅ニ十名可ノ人員ニ約
シテ仔細ニ應接セント提督之ヲ許諾シケレハ
日本官吏提督ヲ誘フテ別室ニ赴キタリ此時提
督ハ屬將一人通辨官二人書記官一人ヲ携ヘ其
室ニ赴キケルニ此室ハ初ノ廳ニ比スレハ甚々

狭小カリケルカ日本ノ高官ハ其右邊ニ列坐シ
亞人ハ其左邊ニ坐ヲ占タリ是前ニ示セシ如ク
日本人ヨリ亞人ヲ尊敬スルノ礼ナリ是ニ於テ
日本人告ケルハ我國ノ沿習ニテ會議ノ濫觸ヨ
リ直ニ要事ヲ諮スル事ナシト是故ニ今先四表
ノ雜話ヲ為シテ次ニ日本高官ノ長ナル林氏ヨ
リ一遍ノ書簡ヲ出シ之ヲ提督ニ交附セリ此書
中ニハ即チ去歲第七月栗濱ニテ大統領ヨリ日
本國王ニ送リタル書簡ノ報復ノ大畧ヲ載タリ
提督直ニ此書ヲ開キ閱スルニ其文ニ曰ク

此固足下ノ再々日本ニ来レルハ容歳栗濱ニ
テ我國王ニ送リタル大統領ノ書簡ノ報復ヲ
得シカ為ナルヘシ大統領ヨリノ書簡ノ條目
ヲ考フルニ本意ノ條目大統領ノ意ノ如ク悉
ク之ヲ訃諾スルヲ能ハス如何トナレハ日本
ニ於テハ原来奕世ノ国法ニテ外国ト交誼ヲ
結フハ一切之ヲ禁止スルノ法ナリシカ余
等衆議シテ古今其宜キヲ異ニスルヲ計リ且
舊法ニ拘泥スルハ時勢ノ变革ヲ知サルヲ
畧悟リタレ共余等カ上ニ國事ヲ制スル人ア

リ又日本國中ノ諸侯モアレハ余等ノミノ決
議ヲ以テ裁斷シ難キヲアレハナリ而シテ容
歳足下ノ来着ノ時ニハ我先君方ニ病疴ニ罹
リ尔後未タ貴國ト交誼ノ了ヲ決セシテ薨去
アリ嗣君新ニ位ニ即ケ凡未タ日數ヲ經サレハ
國家多事ニシテ亞國ト交誼ノ了ヲ議スルニ
暇アラス且外國ト交通ノ了ハ日本闔國ノ大
事ナルヲ以テ新君ニ倉卒ニ之ヲ決スルコト
能ハス先国内ノ諸侯ヲ會シ各其意ヲ問ント
欲ス然レハ我國王モ今速ニ獨斷ニシテ悉ク

古法ヲ廢シ得サルヲ實ニ明ケシ去秋和蘭官
吏長崎港ヲ獲セシ時我先君薨去アリテ國內
頗ル多事ナルカ故ニ未亞國トノ交誼ノ一條
ヲ議スルニ暇アラサル事ヲ足下ニ告ヘシト
切ニ和蘭官吏ニ託シタレハ和蘭官吏必ス亞
人ニ報スヘシトテ快ク許諾シ出テ去タリ定
メテ蘭人ヨリ此事ヲ足下ニ告タルナラシ而
シテ又尔後魯西亜人モ長崎港ニ來リテ交通
ノ事ヲ願ヒ出タレハ我國喪ニ由テ速ニ報復
シ得サルヲ告タレハ魯人モ速ニ了ノ決シ

難キヲ聞キ長崎ヲ退去セリ然レハ今足下速
路ヲ厭ハヌ再々此地ニ來リ一事モ足下ニ決
答スルヲアタハスンハ足下ノ意ニ負クヲ實
ニ甚シカルヘシ是故ニ今足下ニ對シ出格ノ
議論ヲ以テ貴國ノ企望數條ノ内ヲ撰ヒ其兩
三條ヲ許諾スヘシ兩三條トイヘルハ貴國ノ
船舶日本近地航海ノ往來ニ我海港ニ碇泊シ
且破船等ノ了アル片ハ我地ニ上陸シテ之ヲ
修理シ又船中ニテ薪水食料等ノ如キ乏シキ
物アル時ハ我地ニ於テ之ヲ求メント欲スル等

ノフニシテ此條ハ則チ之ヲ許諾セリ貴國ノ
船舶ノ為ニ我地ニ於テ海港ヲ開クヘシトノ
一ハ貴國ヨリ何レノ海港ヲ望メルヤ詳ニ之ヲ
聞テ後大約五年ヲ期シテ其港ヲ開ント欲ス
日本ヨリ貴國ノ船ニ與フル石炭ハ明年正月
一日即チ西國ノヨリ長崎港ニ於テ交付スヘ
シ其他ノ物ハ何物ヲ論セス日本ニ生シテ之
ヲ他ニ送ルモ我舊來ノ國法ニ負カサル者ハ
悉ク附與スヘシ而シテ貴國ノ船ニ送ル石炭
ノ量ハ大約毎歲幾干ナルヤ其價ノ如キハ黒

川嘉平森山栄之助ヲ遣ニ貴國ノ官吏ト相議
シテ之ヲ定メシメ和親交通ノ本條約ヲ取リ
結フトハ他日ノ會話ニ相議スヘシト
日本官吏ノ命ニ由テ森山栄之助之ヲ書ス
我提督此書ヲ一見シ了リテ此書ハ實ニ至要ノ
書カキ束ナレハ願クハ日本高官ノ自筆ニテ之ヲ記
シ明日迄ニ余ニ送り給ハルヘシト又提督ヨリ
日本人ニイヘリケルハ日本ニテ西國ト交通セ
ント欲セハ宜ク清朝ト我國ト和親シタル先規
ニ倣ヒ之ヲ行フヘシ若シ日本ニテ異論ヲ起シ之

ヲ拒マハ我本國ヨリ多クノ軍艦ヲ師ヒ来リテ
後和親ヲ謀リ日本人ヲシテ異論ナカラシメン
ノミ然レバ今軍艦ヲ師フルナク平穩ニ和親
ヲ結フ時ハ實ニ兩國ノ大幸之ニ過ル者アル
ナシ而シテ兩國既ニ和親ヲ修ハルニ及ンテハ
我國ヨリ常ニ二隻可ノ軍艦ヲ日本海ニ遣シ日
本人ノ為ニ常ニ其國ヲ警衛シテ外寇ニ備ヘシ
ムヘシト又此時清朝ト合衆國トノ和親ノ條約
ノ臨^ラ寫^ツト提督ノ昏簡三遍トヲ漢文英文及ヒ蘭
文ノ三様ニ記シテ之ヲ日本官吏ニ示セリ是ハ

日本人^ニ國ヨリ送リタル昏簡ヲ日本ノ文字ヲ
用ヒ和文ニ記サン^トヲ望ミタレ^ト亞國ニ於テ
未和文ヲ解スル者ナクシテ其文ヲ作り得サル
カ故ニ今此三様ノ文ヲ示シテ日本人就裡其一
文ヲ解セン^トヲ欲テ也提督ヨリ日本高官等ニ
與フル書ノ文ニ曰ク
千八百五十四年第三月八日即チ土曜日日本
高官等ノ長ニ與フル書
合衆國ノ使節某熟考スルニ日本人宜ク合衆
國ト和親交通ヲ行フヘシ夫兩國互ニ相和親

スル時ハ実ニ両国人民ノ大幸ニシテ殊ニ日
本ノ為ニハ甚シキ大幸トス且兩國和親スレ
ハ其人民共ニ相闘争スルナク交際平和ニ
シテ自ラ又相共ニ輯睦セシ凡ク和親交通セ
シ国ハ其人民共ニ争鬪セサルハ万国ノ通法
ニシテ又方今ノ通風ナリ故ニ戦争ノ害ヲ防
クノ策ハ実ニ和親ヲ以テ最要トス今我国ト
貴國ト和親ヲ修ル時ハ其裨益^{エキ}専ラ貴國ニ在
リ然レハ我々今亞國ノ為ニ裨益ヲ謀ラスシテ
専ラ貴國ノ為ノニニ和親ヲ行フナリ彼西洋

人ノ如キニ至テハ大ニ亞國ト異ナリ彼我共
ニ同等ノ利ヲ得ニ非サレハ必ス和親ヲ修ム
ルナシ我船舶日本ニ来着スルニ及シテハ
船中ニ食料ノ有無ヲ論ヤス願クハ日本ヨリ
毎日新鮮ノ肉類^ニ野菜等ヲ惠^ニ賜ハシ
テ請フ此價ハ唯日本人ノ望ム所ニ從フヘシ
航海スルニ當テ船中食料薪水等ノ物ニ乏シ
キハ平日ノナレハ日本人常ニ意ヲ用ヒテ
之ヲ救助セラルヘシ又船中ノ將士等ハ時々
海岸ニ上陸シ銃劔及々戦陣等ノ訓練ニ由テ

身体ヲ運動セサレハ實ニ攝生ノ法ニ背キテ
生命ニ害アリ然レニ余等今日迄ハ日本ノ國
法ニ從テ要事アルニ非サレハ謾リニ海岸ニ
上陸セス後來兩國和親ノ國トナリテハ宜ク
上陸ヲモ許シ運動セシメ給ハルヘシ上陸ス
ヘキ地ノ如キハ貴國ニテ海岸ノ便地ヲ撰ヒ
標木ヲ立テ境界ヲ定メ之ヲ余等ニ示スヘシ
又兩國ノ會合ニ當テ其談話ノ下ハ皆之ヲ兼
談ニセハ共ニ甚タ其便利少カラスト思ヘリ
ト
水師提督 彼理

次編ノ文ニ曰ク

上ニ續々述フル所ノ和親ノ條目ハ清朝ト合
衆國トノ和親ノ條約ニ例フ所ナリ貴國宜ク
此諸條ニ注意シ之ヲ斟酌シテ和親ノ條目ヲ
定ムヘシ然レニ尚別ニ和親ノ下ニ就テ切ニ
貴國ニ報告セント欲スル一事アリ抑和親ハ
守國ノ良策ナルニ貴國ニハ之ヲ好マスシテ
常ニ和議ヲ破ラント欲ス是實ニ無謀ノ甚キ
ナリ去歲余等貴國ニ來着セシハ我大統領切
ニ日本人ト和親ヲ修メント欲シ復今余ホラ

シテ其企望ヲ成就セシメシトテ謀ラシム是
故ニ日本人速ニ和親ノコトヲ議シテ以テ兩國
ノ交通ヲ整フヘシ然ルニ貴國ニハ和親ヲ好
マズシテ頻リニ之ヲ拒シテ謀リ常ニ無益
ノ議論ヲ起シ以テ遂ニ此報復ヲ緩フセント
欲スル者ニ似タリ又合衆國ノ船舶日本海ニ
航スルハ日ヲ追ヒ月ヲ累テ益方ニ多カルハ
シ其船舶若シ大風激浪等ノ災害ニ遇テ日本地
ニ上陸セハ日本人此無辜ノ民ヲ待ニ讐敵ノ
所置ヲ以テシ必ス之ヲ窘厄セシムルニ非サ

レハ止ムコトナシ大統領常ニ深ク之ヲ憂ヘト
ス是故ニ今貴國ト和親ヲ修メ此憂ヲ免レシ
メント欲スルナリ凡ソ貴國ノ久ハ外國人ヲ
待遇スルニ務メテ不仁ノ所置ヲ以テス是大
ニ世畏萬國ノ風俗ニ乖テリ後來復々如此キノ
所置アラハ大統領モ亦之ニ酬ユルノ策アラ
ンノミ然レバ我大統領日本人ヲシテ再々如
此キ所置ナカラシメンカ為ニ今余ヲシテ數
双ノ軍艦ニ將トシテ日本ニ來ラシメタリ又
余ク師ユル所ノ軍艦ハ唯此九双ノミニ非ス

近日教十双ノ軍艦次テ到着セシ今余カ軍艦
ヲ領シテ日本ニ來着セルハ唯大統領ノ答簡
ヲ日本ニ贈ランカ為ノミニ非ス日本ト懇切
ノ交誼ヲ結ビ以テ兩國ノ和平ヲ謀ランカ為
ナリ去歲大統領ノ答ヲ贈テ後速ニ其報復ヲ
責ルニ非ス日本人ヲシテ緩々ト事理ヲ論ス
ルノ間ヲ與ヘ商議セシメタリ是合衆國人ノ
尊ク急ヲ用ヒ情ヲ竭スヲ徵スルニ足ルニ而
シテ今大統領ヨリ日本ニ使節ヲ出サンカ為
ニ國內最羨ノ蒸氣船三双ヲ撰ヒ遣シ日本ニ

送ルニ合衆國ニテ製造シタル奇機ノ小形ヲ
以テセシモ皆大統領ノ心日本ニ懇切ナルヨ
リ起ルニ非スシテ何ソヤ我國ニ在テハ如此
ク衆島ノ情ヲ以テ貴國ト和親セント欲スレ
共貴國人尚之ヲ察セシテ和親ヲ許サレ時
ハ吾國ニ在テモ他ニ謁スヘキノ術ナレハ
止ムトヲ得ス軍艦ヲ出シ戦闘ニ及ハント欲
ス然テ西洋諸國ハ合衆國ト其志大ニ異ナリ
大合衆國ハ此諸國ニ及シテ日本ト僅ニ太平
洋ヲ隔テ隣國タリ近隣ヲ好テ以テ日本人ヲ

待遇スルニ実ニ親愛ヲ加フル所アリ然レハ
亞国ノ諸船太平洋ト日本海トノ間ニ航海シ
テ帆檣林立シ殊ニ鯨漁船ノ輻輳スルハ毎歲
五百餘隻ニ及ヘリ此船中ニ若薪水食料等ノ
乏キトアラハ日本人ヨリ之ヲ與フルハ實ニ
近隣ノ親情ナルヘシ○清朝ト亞國ト和親ヲ
修メ交商セシヨリ清朝ニ大ナル裨益ヲ得タ
リ今年モ未タ數月ナラサルニ亞國ヨリ清朝
ニ納ムル所ノ貨量大約六百五十万「タイル」支
ノ貨量ニ當ル我ニ至ル即チ茶ノ價三百六十万

「タイル」素絹ノ價三百万「タイル」トス嘗テ清朝
ノ流民三万人餘亞國ニ漂着セルコトアリ亞國
人厚ク仁意ヲ垂テ之ヲ款待シ居宅ヲ構ヘテ
之ニ英ヘ教法ヲ授ンテ之ヲ奉セシメタリ此
時其流民某氏ノ貨ヲ買テ其價ヲ過量ニ与ヘ
タルコトアリ尔後我國人ニテ正算シテ始テ多
ク取タルヲ知り急ニ其餘金ヲ清朝人ニ返シ
タリ茲ニ此數條ノコトヲ奉タルハ和親交商ノ
大利アルヲ示シ且亞人ノ詐偽ナキヲ示サシ
タリ為ナリ和親通商ノ大利アル實ニ明亮ナラ

スヤ是故ニ貴國宜ク此諸吏ヲ鑿ミテ以テ速
ニ和親ヲ行フヘシ今若貴國ヨリ大統領ノ昏
簡ノ趣ヲ悉ク兼諾セシ復書ヲ得サル時ハ我
誓ヲ再ヒ本國ノ地ヲ踏コト無ラシ茶敬謹白
日本使節合衆國水師提督 英西彼理記
林大等頭等足下ニ呈ス
是ヨリ兩日前^{ミシ}止^ス斯^止華^船ノ水手一名病歿ス
ル者アリ而シテ陸地ニ揚テ之ヲ埋葬セシト叙
ス是故ニ提督今日ノ會ニ於テ此死尸ノ為ニ日
本ニテ一區ノ地ヲ買ヒ之ヲ埋葬シ尔後又死者

アルニ當テ亦之ヲ其地ニ葬ラシテヲ識シケル
ニ日本官吏等ハ此吏ヲ甚夕嫌ヒ避ケ猶豫シテ
回答ニモ及ヒカ子タル体ニ見タリ○夫ヨリ日
本人余等ヲ饗應セントテ酒菓餅汁及ヒ魚類ヲ
多ク出シタリ日本高官乃チ曰余等西洋並ニ亞
國ナトノ通義ヲ知サレ凡我國ノ風俗ニテハ主
人ヨリ客タル人ニ酒食ヲ侷ムルニハ先^ッ主人ヨ
リ始メ之ヲ嘗ムルヲ以テ常礼トスト是ニ於テ
高官先酌ヲ命シテ自ラ一杯ヲ受ケ之ヲ傾ケ杯
底ノ餘瀝マテ尽シ了リテ亞人ニ共ニ滿坐酒宴

ニ及ヒタリ我國ニテ外國人ト交リ飲食スルニ
ハ一手ノ蒸餅ヲ取り玉客兩人ニテ分チ食フヲ
以テ交清ノ厚ク且親シキヲ表スルトセシカ
日本人今余等ヲ饗スルニ亦如此ノ例ヲ用フル
者ニ似タリ日本官吏曰外國人ヲ葬ラシカ為ニ
古來長崎港ニ一院ヲ設ケ置ケリ今足下ノ船中死
者ノ尸ヲ浦賀ニ送ルヘシ然レハ日本ニテ傭夫
ニ命シ之ヲ長崎ニ送致シ外國人ノ墓所ニ葬ル
ヘシト此時提督世良萬國ニテ他國ニ行テ死者
アレハ皆其國ノ不用ノ地ヲ借テ之ヲ葬ルヲ以

テ通例トセリ貴國ニテモ余ニ此邊ノ不用ナル
一地ヲ借シ與フヘシトイセタルニ日本人遂ニ
此度ヲ承諾セサレハ提督以為ラク日本人ノ借
ス^トヲ好マサル地ニ強テ之ヲ葬ラハ他日若日
本人其尸ヲ發出スル^トアラシム謀ルヘカラス
ト是ニ於テ提督ノ曰此邊ナル^トウヱブスタ島ハ此
ハ^ハ亞^ニ周^ニ地^ニ圖^ニニテア^リノ^リカ^シ、ア^ル、^トエ^ル、^ニシ^ノ、^迄
隣^ニ在^リ然^レニ其^何レ^ノ島^{ナル}、^トラ^シ、^ニセ^ス
不用ノ島ト見レハ願クハ我レ此島ヲ借テ埋葬ト
スヘシト日本高官イヘリケルハ然ラハ横濱ノ寺
院ノ墓所ノ例ニ之ヲ葬ラシムヘシ明朝我官吏

ヲ足下ノ船中ニ遣サン貴國ノ士官之ト共ニ水
手ノ戸ヲ擔ヒ行テ彼地ニ埋葬スヘシト○提督
日本人ニ向ヒ近日快晴ノ天氣アラハ貴國ノ高
官等遊觀ノ爲メ我船中ニ來臨シ賜ハルヘシト告
ケ歸船ノ装ヲ爲シ乃高官等ニ辭シテ既ニ坐中
ヲ出ケンハ次席ニ跼タル我々將士等ハ日本人ノ
容貌質朴ノ風骨アルヲ見テ其肖像ヲ画キテ戲
ル居タリ提督此等ヲ招キ諸將士ヲ帥ヒテ靜ニ
本船ニ歸リタリ○其翌第九日即チ本曜日ノ話
且ニ日本官吏通詞森山榮之助ヲ携ヘ我水手ノ

葬送ノ引路ヲナサンカ爲ニ米止新止華船來レ
リ是ニ於テ船中埋葬ノ装ヲ爲シ夕刻ニ及ンテ
設備悉ク整ヒ僧官「シヨラン」ス通辨官「ウレレ」山
ス並ニ水手一人死尸ヲ送リテ日本官吏ト共ニ
横渡ニ上陸シケレハ日本官吏之ヲ導キテ横渡
村ノ近邊ナル丘陵ノ下ニ誘ヒ往タリ日本又ハ
從來「キリシス」ノ教法ヲ惡ミ嚴禁ナリト聞シニ
此僧官「シヨラン」ス氏ハ「キリシス」教ノ僧ナレバ
日本人等彼ヲ尊敬シテ忌諱ノ状態モ無リケリ
僧官並ニ通辨官等數人鼓ヲ鳴シ徑支ヲ唱ヘテ

其死尸ヲ送り行ケレハ日本人之ヲ見ントラ彼此
ノ村落ヨリ群リ来レリ葬送ノ道横ニ横濱ノ村
中ヲ通りケレハ又路傍ノ村舎ヨリモ衆人出ラ
之ヲ見物セリ巫人等皆日本官吏ニ導カレテ既
ニ葬地ニ至リヌレハ水手ヲ埋葬スヘキ地ノ側
ニハ日本人ノ墳墓累々トシテ或ハ石碑アリ或
ハ石佛ナトアリ其葬地ニハ日本ノ僧官既ニ来
リテ水手ノ死尸ヲ強テ居タル体ナリジヨソシ
ス先読経ヲ始メタレハ日本僧官モ席上ニ坐ラ
占テ其前ニ卓子ヲ居ヘ卓子上ニ経並ニ鐘ヲ置

キ香ヲ燃シテ之ヲ焚キ又些少ノ米及ヒ酒ヲ椀
ニ盛テ卓子上ニ備ヘ高聲ニ経文ヲ読タリ巫人
ハ死尸ヲ葬リ了リテ此地ヲ退キ去タリシニ日
本僧官ハ尚葬地ニ残りテ経ヲ読ミ鐘ヲ鳴シテ
埋葬ノ了ヲ終行セリ是日本又町噺ニ埋葬ノ礼
ヲ行ヘルナルヘシ亞國ノ僧官ジヨランス並ニ
ウイルレハ兩氏ハ久ク支那ニ在留シテ頗ル佛法
ヲモ知タル人ナレハ殊ニ命日本僧ノ懇懇ナル
拜礼ニ感シタリケリ○此日日本官吏黒川嘉平
通辭森山栄之助ホーハタンシ船ニ来リテ我大統

領ニ贈ル復答ヲ携ヘ示セリ
此昏陶ハ日本高貴
ル後日日本ヨリ大統領ニ贈
ル返陶ノ大意ヲ示ス者ナリ
此二名ノ日本人是
ヨリ米止新正筆船ニ往キ船將阿丹ト種々ノ議
論ヲ為シ來ル當十三日即チ月曜日ヲ日本入亞
國ヨリノ賸物ヲ受取ヘキ日ト定メ且曰此西亞
國ヨリ日本ニ送レル傳信機蒸氣車及ヒ農具等
ノ用法ヲ一見セント欲シタレハ願クハ前日ニ
貴國ノ人ヲ遣シテ諸機ノ用法ヲ試ムヘキ地ヲ
一覽セシメ預メ具裝置ヲ為ント此時阿丹告ク
ルハ凡ソ他國ヨリ送ル賸物ハ高貴ノ官吏ニ命

シ之ヲ受ケ取シムルヲ万国通義ノ常列トスル
トテ告ケレハ榮之助答テ日本ニ於テモ亦然リ
トイヘリ又榮之助イヘルハ大統領ニ贈ル復答
ヲ囊ニ提督ニ示シ置タリシカ其復答ハ何レノ日
ニ贈ラルヘキヤト阿丹答テ明日即チ土曜日ニ
贈ルヘシトイヘリ○阿丹官吏ニ向テ曰日本ニ
テ我國船舶ノ為ニ海港ヲ開カント出レシカ日
本海岸何ノ地ニ之ヲ開クヘキヤ又和親ノ年ヨ
リ五年ノ後ニ其海港ヲ開カントイヘルハ實ニ
遲緩ノ甚キニ非スヤ何ノ地ニ海港ヲ開キテモ

長崎出島ノ如キ偏小ノ地ハ余等カ望ム所ニ非
スト榮之助ノ曰此等ノ一ハ余等倉卒ニ報復ス
ヘキ一ニ非ス何レ我高官等此度ヲ會議シ而シ
テ後ニ一港ヲ定メ答フヘキノミト阿丹曰兩國
既ニ和親シテ後ハ片時ヲ待ス速ニ一港ヲ撰ビ
以テ我船舶ノ航海ニ便メント欲ス實ニ片時モ
緩フスヘカラス然レモ貴國ニ於テ古法ヲ變シ
外國ト和親ヲ結ビ開港等ノ一ヲ決スルハ古未
未曾有ノ事ナレハ國法ニ悖ル一モ多カルヘシ
故ニ余等モ亦他國ヲ按シテ彼此ノ地ヲ撰ビ之

ヲ示シテ以テ直ニ其開港ヲ望ムニ非ス唯且ク
貴國ニ於テ撰フ所ノ海港ニ從ハシト又曰
前日我提督ヨリ時々船中ノ衆人ヲシテ海濱ニ
上陸シ運動セシメントテ請リ貴國ノ高官速ニ
此度ヲ議定シ標木ヲ立テ以テ我衆人上陸スヘ
キノ地ヲ表スヘシ今船中ノ衆人ニ貴國ヨリ上陸
ヲ許スト雖モ必ス深ク内地ニ入り北方ニ向ヒ
江戸ニ赴カントスル意アルニ非スト榮之助曰
此等ノ一ハ我高官モ未タ之ヲ一定スル莫能ハス
然レモ速ニ提督ノ願ノ所ニ從フヘシト阿丹曰

我請ノ所ノ薪水食料等ノ價ハ唯貴國ノ望ム所
ニ從ニ之ヲ償ハシ而シテ金銀ノ貨幣ハ各國ノ
製アリテ其價一樣ナラス故ニ兩國ヨリ相議シ
テ各其貨幣ノ價ヲ比較シ亞國某ノ貨幣幾千ハ
リ本某ノ貨幣幾千ニ當ルヲ一決セント榮之
助曰此等ノ一ハ原來之ヲ長崎ニテ議スルヲ以
テ常例トセリ然レモ今之ヲ我高官ニ問ヒ試シ
ノミト阿丹曰尔來ノ應接會話等ハ十一時ヨリ
始メ一時ニ止ヘシト日本ノ四羊牧起ヲイフヨリ是日ノ
會話ハ是ノミニテ止タリケリ○翌第三月十一

日阿丹日本官吏黒川嘉平等ト横濱ニテ會話セ
リ此收阿丹提督ヨリ日本高官ニ贈ル復各ヲ携
ヘ來レリ此書ハ昨日筆記スル所ニシテ書中
ノ意ハ今日本ニテ其國制ヲ一変シ亞國ト交通
セント欲スルノ意実ニ欣喜ノ至ニ堪ス然レモ
既ニ外國ト交通セント欲スルノ意ヲ決セハ且
ク尚稍寛大ノ議論ヲ起シ交通ノ道ヲ弘ムヘキ
ニ非スヤ今貴國亞國ト和親ノ情未ダ信意ヲ尽サ
ル所アリ誠ニ惜ムヘシ而シテ前ニ提督ヨリ贈
ル所ノ二遍ノ書簡ノ報復ハ日本ニテ未ダ決議セ

サレハ之ヲ出ス一紙ハス又亞人海岸ニ上陸シ
テ運動セシテ請タレニ未日本高層ノ報復ヲ
得ス唯日本通詞榮之助余等ニ向テ足下等請フ
所ノ上陸ノ一ハ敢テ苦シカルヘカラスト答ヘ
タレニ是等ノ一ヲ決スルハ通詞ノ職務ニ非サ
ル一ヲ載タリ次ニ阿丹又雜話ノ後ニ今提督一
双ノ船ヲ本國ニ返シテ日本人ト應接ノ次ヲ詳
ニ大統領ニ報シ其命令ヲ待テ又他ノ所置ヲ謀
ント欲スト告ケレハ此地日本人答ヘテ今何等
ノ故ニ由テ本國ニ報セント欲スルヤ抑貴國ニ

テハ懇親ノ情ヲ以テ日本人ト交ラント欲スル
歟敵國ヲ以テ我ヲ待ント欲スルヤトイヘリ阿
丹答ヘテ亞國ニテハ固ヨリ懇情ヲ以テ貴國ト
交ラント欲スルトテ此日ノ會話ハ止タリケリ
○第三月十三日ハ海風稍強ク波浪モ亦稍烈シ
クレニ亞國ヨリ日本國王並ニ其高層等ニ送ラ
ントテ齎シ來レル船中ノ聘物ヲ日本人ニ交付
セント約シタル日ナレハ其諸物ヲ小舟ニ載テ
海濱ニ揚タリ物貨ノ名目即テ示スカ如シ
ボートル氏製式小銃五日本國

メナルズ氏製式小銃三門

騎兵刀十二口 日本国

砲兵刀六口 日本国

拳銃二十門 日本国

騎兵銃二門

騎兵銃彈藥二箱 廿二箱ヲ收ム

騎兵擔銃帶二條

ホール氏製式小銃十門

砲兵刀十一口

騎兵銃一門

騎兵銃彈藥一箱 ヲ六十發

騎兵擔銃帶一條

書籍箱一個 日本国

衣裳一箱 日本国

ウエレシ酒一壺 日本国

艶香具一箱 日本国

箱一個

酒一壺 日本国

テュレコルレール一壺 日本国

拳銃箱一個

陶製ノ箱一個 = 日本高官

バスケットサンバン酒一壺 = 日本高官

望遠鏡一具 = 日本高官

バスケットサンバン酒一壺 = 日本高官

茶箱一個 = 日本高官

マフンノ = 日本高官

フランシスラーフボート三個

茶箱一個 = 日本高官

傳信機二具

フーシボンコロドリユツペツ

ロコモラブ一具

酒一個

ラーシエボシバーツ

室爐三個 室内ノ一種

時計數種

亞國用「ヒセル」ノ秤一具

バスケットオフィルレコホットトレノ食物

亞國用ヤードノ尺度一個

亞國用ノ秤一個

傳信機ノ鉄線四把

亞国用カルロシ量ノ秤一個
 ノチトシ紙一束
 亞米利加合衆國沿海圖一箱
 イレシユールシートル一個
 ニラステキ一箱
 ボキシシシのアサイド一箱
 ボキジシのバツレレ一箱
 亞國草木種子一箱
 コンチツキテシのアッベラ子レユス一個
 耕作器械大數十種
小數十種

將校亞勃多氏提督ノ命ヲ受ケ兵卒ヲ領シ賸物
 ヲ齎シテ横濱ニ上陸シケレハ香山栄丸衛門及ヒ
 日本官吏数名出テ迎ヘテ横濱ノ館舎ニ導ヒキ
 次テ日本高官林大学頭直ニ出テ来リテ亞勃多
 ニ會セリ是ニ於テ亞勃多氏提督ノ各ヲ出シテ
 其賸物ヲ交付シタリ此時日本人此賸物ヲ館舎
 ノ側ニ在ル一小舎ニ收メタリ此小舎ハ賸物ヲ
 收メシカ為ニ新ニ營ミタル者ナルヘシ是ニ於
 テ林大学頭イヘルハ来ル第十六日即チ本曜日
 ニ提督ト會合シテ我海岸閘港等ノ一ニ就テ詳

ニ報答スヘシト。○是ヨリ吾人等日本ニ送レル
物貸ノ箱ヲ解テ傳信機ヲ出シ、マッセルマ〇タラッ
ヘルウイリエ、山、西氏ハ傳信機ノ用法ニ巧ミナ
レハ傳信ノ諸機ヲ裝置シテ其用法ヲ施シ日本
人ヲシテ之ヲ觀セシメケレハ日本人等各之ヲ
見テ嘆賞セサル者ナカリケリ。斯テ日本ノ高官
感賞ニ堪サリケン。吾人ニ謂テ曰、未ル十六日ノ
会ニハ我官人モ多ク來会スヘシ。何卒其日モ今
日ノ如ク再ニ此傳信機ノ用法ヲ行セテ我官人
等ニ一見シ賜ハルヘシト。次ニ吾國ヨリ日本ニ

送レル大輪車ノ小形ヲ出シテ吾國ノ匠エ、グー
ダシバイ、兩氏其裝置ヲ為シ、蒸氣ヲ釀シ用法ヲ
施シテ神速微妙ノ運動ヲ為サシメ、日本人ニ示シ
ケレハ日本人等復皆大ニ驚キ賞歎セサルモノハ
無リケリ。原來日本政府ニ於テハ外國ト交通ス
ルトテ大ニ拒ミシト見ヘタレ共、尔後日々ニ小舟
ヲ出シ薪氷食料等ヲ余等々船ニ送りシテ見レハ
絶テ親愛ノ交情無ニシモ非ス。又今日ノ如ク精
巧ナル吾國ノ奇器妙術ヲ示シ以テ其心ヲ服セ
シムルニ莫ニ日本又テ誘導スルノ一術ニシテ

自然ニ此國ヲ化服スルノ根元トモナリヌヘシ
日本人等此諸器ヲ見テ大ニ其珍奇精巧ヲ歎賞
セシカニ敢テ細カニ之ヲ檢索スルノ意ナシ又次
ニ官吏士卒等數輩入テ来リ吾國ヨリ送りタル
衣服ノ類ヲ取テ屢卷舒シテ之ヲ見タレハ心願
ニ止メ細カニ檢査スル体ハ見ヘサリケリ凡ソ日本
人ハ外國ノ珍奇物ヲ好ミ其妙術ヲ得ント欲ス
ルノ意アルニ似タレハ日本ノ技術ナハ一変モ
之ヲ外國人ニ知シムルヲ欲セサル体ナリ是
畢竟日本ノ國政固陋ニシテ此等ノ一ヲ禁スル

カ故ナルヘシ是故ニ外國人日本ニ来テ國內ノ
諸事ヲ探知セント欲スルモ決シテ容易ニハ一
トヲモ知り得ヘカラス然レハ是ヨリ吾人等漸
次ニ日本人ト交情ヲ深クシ有志ノ智士アリテ
此地ニ来リ其國語ヲ學ビ以テ土人ト交ラハ國
内ノ事情モ必ス詳ニ之ヲ搜索シ得シノミ又日本
人ノ情態ヲ熟察スルニ其政府ニテハ誠ニ外國
人ト交通スルヲ嫌フト雖其人民等ハ敢テ之ヲ
嫌フニモアラヌト見ユ然レハ其人民モ君長ヨ
リノ制禁ヲ畏レ護リニ外國又ト交通マサルナ

ルヘシ抑日本ノ政道ハ君主独斷ノ法ナレハ權
威全ク上ニ在テ衆民之ニ威服ス故ニ官吏ト雖
古今ノ時宜ヲ斟酌シ其國法ヲ變シテ外國ト交
通スルヲアタハス又多ク問者ヲ出シ以テ民間
ヲ觀察セシムルヲ以テ土人等モ制度ノ嚴ナル
ヲ畏レ外國人ニ交情ヲ尽スル能ハサルナラン
然ラスンハ日本人モ琉球人等ノ如ク雖ク外國
人ト親ミ交ハルナルヘシ○第三月十四日ニ黒
川嘉平森山栄之助ト共ニ余カ船中ニ來レリ此
兩人ハ時々船中ニ來テ薪水食料等ノ有無ヲ問

ヒ來レヒ皆下官ノ者ナレハ提督ハ自ラ之ニ面
會スルヲナク唯屬將或ハ官吏等ヲシテ常ニ之
ニ應接セシメタリ此日黒川嘉平等既ニ退去シ
テ後忽チ神奈川ヨリ一奴ノ日本船急ニ走來
リ我船ニ到着シテ忙ハシク余等ニ謂テ曰今亞
國ノ將士等數人神奈川上陸シテ馭内ヲ徘徊シ
遂ニ是ヨリ江戸ニ赴カント欲スルニ似タリ余
等カ曰ク日本ニ於テ如此クナラハ兩國ノ人民
或ハ鬭争ヲ起スヲアラン實ニ患フヘキナリ
ト是ニ於テ日本人憤然トシテ曰我高官貴國ノ

提督ト會シテ諸吏ヲ約束シ未謾リニ外國人ヲ
上陸セシムルノ約條アルヲ聞ス貴國ニテ今神
奈川ニ上陸セシ者ヲ罰セスハ大ニ此田ノ會
約ニ背カント之ニ由テ直ニ我船中ノ砲手ニ命
ジ一声ノ大砲ヲ放テタレハ神奈川ニ上陸セシ
輩忽テ引キ退ラ船中ニ歸リタリ此取提督一條
ノ令ヲ出シテ船中ニ示シ後來漫リニ上陸スル
トナカラシメシカ為ニ諸人ニ教諭セリ又其令
ヲ一紙ニ寫シテ今此吏ヲ報道セシカ為ニ來レ
ル日本ノ使者ニ与ヘテ歸ラシメタリ使者此吏

ヲ日本官吏ニ告ケレハ日本人提督ノ実情ヲ知
リ翌日使者ヲ船中ニ送リテ提督ノ厚情ヲ謝セ
リ今神奈川ニ上陸シタル亞人ノ一人ハ其名ヲ
ビツレンカト稱シシユスコイハンナ船ニ乘リ來リ
タル者ニシテ小舟ニテ深ク江戸港ニ入りテ測
量シ海岸ノ形勢ヲ窺ヒ遂ニ神奈川ニ上陸シケ
レ日日本ノ官吏及ヒ通詞名村五八郎ノ為ニ防
カルタレトビツレタ之ニ屈セスシテ尚進ミ行
ケレハ日本人モ之ヲ如何トスルト克ハス其後
ニ尾行シケルカ遂ニ河崎ニ達セリ茲ニ稍大ナ

ル一條ノ河水アリテ前路ニ横ハレリ「ヒツテンカ」
之ヲ渉ラントテ其津吏ヲ却カシタレ「ヒ津吏之」
ヲ肯ンセサルヲ以テ浅水ヲ探リテ自ラ渉ラン
トセシニ日本ノ使者駛セ來テ提督ノ命令ノ臨
写ヲ示シ速ニ退クヘキ「ヲ告タリケレハ「ヒツテ」
ンカ」之ヲ見テ直ニ引キ退キタリケリ「ヒツテンカ」
今神奈川駅ヲ一見セシニ其街坊稍長クシテ岐
路サナシト雖屋宇稠密民口頗ル蕃殖セリ「ヒツテ」
ンカ」路傍ノ民家ニ入テ「吾國ノ金貨ト日本金貨」
ト取り替タリ然レ「ヒ此等ノ「トハ日本國法ニテ」

堅ク禁止セル「ト見テ日本又余等ニ來リ告テ」
曰「吾人一名神奈川ニ上陸シテ漫リニ商店ニ入」
リ「吾國ノ金貨ヲ出シ頻リニ手様シテ日本ノ金」
銀ヲ見ン「トヲ請ケル故店主辞スル「ト銀ハス數」
種ノ貨賤ヲ出シテ之ニ示シケレハ「吾人提秤ヲ」
以テ日本ノ金銀ト「吾金トヲ秤リ遂ニ日本金ヲ」
囊中ニ收メ之ト同量ノ「吾金ヲ置テ辞シ去タリ」
ト「ソ又此時日本又余等ニ告テ曰神奈川ニ上陸」
セシ「吾人ハ更ニ親愛ノ情無クシテ謾リニ自己ノ」
慕威ヲ張り動モスレハ其佩刀ヲ拔テ日本ヲ威

サントセリ然レモ日本人ハ敢テ此人ニ敵對セ
ス善ヲ加フルナクシテ諸夏平穩ニ應對セリ
ト是ニ由ラ之ヲ觀ハ日本又モ亦友愛ノ情無ニ
シモアラサルナリ○其翌日森山榮之助余カ船
中ニ来リ前日ビツテンカ神奈川ノ民家ニ殘シ来
レル五金ヲ余ニ送リテビツテンカノ携ヘ歸リタ
ル日本金ヲ返サンコトヲ請タリ○斯テ兩國ノ吏
官相約セシ會日萬三月十六日ニナリヌレモ此
日ハ雨天ナレハ延緩シテ翌萬十七日ト定メタ
リ萬十六日ニ日本萬官ヨリ提督ニ前日ノ復畚

ヲ送レリ其文ニ曰ク

去ル萬三月八日ノ會ニ將軍ノ書簡ヲ得又
萬十一日ノ會ニ一畚ヲ得タリ余等此兩書
ヲ俟セ及復シテ其意旨ヲ見ニ將軍日本ヲ
シテ貴國ト約條ヲ結ハンニハ皆清朝ノ例
ニ倣ハシメント欲スル莫實ニ分明ナリ然
レハ去秋蘭人ヲシテ將軍ニ告シメ又前日
モ將軍ニ告シ如ク去歲先君既ニ薨シ嗣君
新ニ位ヲ踐タマヘ共歲月未茂クシテ外國
ト交誼ヲ結フ等ノ大義ヲ論定スルニ暇ア

ラス夫貴國ノ船舶日本海ニ航海シ我海岸
ニ碇泊シテ船中薪食等ノ缺乏アル時ニ當
テハ日本ヨリ之ヲ供給シ又若大風劇浪ノ
害ニ逢フ時ハ日本ノ救助ヲ請フ等ノ一ハ
貴國ノ期望更理ノ当然タレハ日本ニ於テ
ニ詳ニ其意ヲ承諾セリ此外諸事清朝ノ例
ニ倂ヒ貴國ト交通セント欲スレハ原来我
國法ハ多ク外國人ト通セサルノ古法ナレ
ハ將軍屢之ヲ勸ムト臣國內一政ニ決定ス
ヘタラス且清朝ハ西洋諸州ト交通スルノ

年月既ニ久シク日本ハ唯長崎港ニ於テ僅
ニ支那人及ヒ和蘭人ト交通スルノミナレ
バ諸國ノ通義ヲ知ス交商ノ諸更モ世界ノ
通則ニ暗ク又和蘭人ト少シク交商ヲ講ス
ト雖國內更ニ些ノ裨益ヲ得ルトナク且金
銀ノ諸貨モ萬國通常ノ用法ニ明ナラス是
故ニ明年我正月ヨリ先崎港ニ於テ石炭等
ノ諸物ヲ以テ試ニ貿易ノ一ヲ講シ尔後五
年ヲ経テ他ノ海港ヲ開キ漸ク以テ大ニ交
易ノ一ヲ議スヘシ將軍宜ク此等ノ一ヲ承

諾シテ暫ク満足ノ思ヲ為シテ請フ

嘉永七年二月十七日 我千八百五十四年
三月十五日ニ当ル

林 大學頭

井戸對馬守

伊澤美作守

鵜殿民部少輔

翌第十七日ニナリケレハ提督通辨官春記官ノ
両吏ヲ携ヘ上陸シテ日本高官等ト横濱ノ館舎
ニ會セリ斯テ兩國ノ官吏相見ノ礼既ニ終リタ
レハ日本萬一等ノ高官林氏ノ曰前日亞国ト約條

ノ隻ニ就テ余等ヨリ各簡ヲ送リタリシカ彼ノ
春中ノ趣ニテ足下ノ意ニ悵ヘルヤト提督ノ曰
前日ノ書ハ英文ノミニテ蘭文ナシ願クハ英蘭
両文ヲ參考シテ精ク足下等ノ意旨ヲ窺ハント
欲スト是ニ於テ林氏蘭文ニ記シタル書簡ヲ出
シ與ヘケレハ提督之ヲ取テ前日ノ英文ノ各簡
ト參考シ是ヨリ又共ニ問答ニ及ヘリ其意旨尤
ニ述ルカ如シ
先日本高官ノ不ヘルハ亞國航海船中必要ノ薪
水食料及ヒ自餘ノ諸物ハ明年正月ヨリ我長崎

港ニ於テ之ヲ貴國ノ船中ニ与フヘシ尔後五年
ヲ期シテ他ノ海港ヲ開キ又我金銀貨幣ノ通價
ハ支那和蘭ノ例ニ倣ヒ以テ之ヲ定ムヘシ
提督答テ曰急ニ今長崎港ヲ開テ他ノ一港ヲ開
キテ崎港ニ代フヘシ且他ノ海港ハ今ヨリ六十
日ヲ期シテ速ニ之ヲ開クヘシ又其通商スル海
港ニ於テ納ムル所ノ租税等ノ法則ヲ定ムヘシ
ト
日本高官ノ曰亞細ノ日本海ニ於テ偶風波ノ難
ニ逢ヒ我海岸ニ来着スル者ハ之ヲ長崎港ニ送

リテ以テ修理等ノ諸費ヲ加フヘシ而シテ他ノ
海港ヲ開ク等ノ事ハ今急ニ謀リ難ケレハ五年
ヲ経テ後之ヲ開キ漸次ニ貴國ノ期望ニ満シメ
ンノミト
提督ノ曰今余ニ告ル所ノ長崎ニテ薪食ヲ与ヘ
又開港ノ期ヲ緩フスル等ノ諸事ハ我レ足下ノ
言ニ從ハシ然レハ難船ノ一事ニ至テハ尚仔細
ニ之ヲ論セント
高官ノ曰難風ニ逢フ者ハ我海岸何レノ地ニ来
着スルモ料ルヘカラサレハ其地ニ於テ之ニ修

復ヲ如フル等ノ一ハ訶スヘカラス且風波ノ難
ニ逢テ日本海岸ニ漂着スル者ハ特リ亞米利加
人ノミナラス萬國皆然ラシ然レハ其内ニハ海
賊等ノ其本國ヲ偽リ来リテ乱暴ヲ為シカ為ニ
風波ノ難ニ托シテ上陸スルヲアラシモ料リ難
ケレハ必ス之ヲ長崎ニ送ルヘシト
提督ノ曰足下ノ言ノ如ク風波ニ逢テ日本地ニ
来ル者ハ莫ニ我國又ノミニ非ス何レノ国ヨリ
漂着スルモ知ヘカラス然レハ貴国ヨリ懇親ノ
清ヲ以テ其人ヲ款待スル時ハ何レノ國ノ者ニ

テモ必ス貴国ニ向テ災害ヲ為ス者アルヘカラ
ス而シテ亞国ハ既ニ日本ト交通ヲ約シタレハ
貴国ニ向テ害ヲ為ノ理ナシ然レハ貴国ヨリ懇
切ヲ竭シ我難船及ヒ漂民ヲ待ツテ領諾セン
ハ事理ノ當然ナラスヤ我国人ハ屢風波ニ逢テ
諸国ノ海岸ニ漂着セシテアレハ神ノ我国人ヲ
惠メルニヤ未何レノ国ニ行テモ不仁ナル待遇
ヲ受タル者アルヲ聞ス然ルニ唯貴国ノ海岸ニ
至リ始テ世界ニ如此キ不仁ノ政治アルヲ知
リ若貴国ニ於テ後來モ尚依然トシテ此政治ヲ

改メラレサル時ハ合衆國ニテモ亦別ニ之ニ應
スル処置ヲ施スヘシト

高官ノ曰我國ニテハ特リ貴國トノ交通ノミニ
アラス和蘭人及ヒ清朝人ト交商スルニモ從來唯
長崎ノ一港ノミト

提督ノ曰今日日本ト合衆國トノ交通ハ何ソ清朝
及ヒ和蘭ノ古例ノミニ徇ハンヤト

高官ノ曰然ラハ今我一港ヲ開クヘシ而シテ交
商税則等ノ諸事ハ開港ノ地ニ至テ之ヲ議定ス
ヘシト

提督ノ曰開港ノ丁ハ我今詳ニ兼諾セリ而シテ
他ノ海港ヲイヘルハ第一ニ琉球ヲ開クヘシト
高官ノ曰琉球ハ日本ト遙ニ隔絶タル地ナレハ
余等今此地ニテ其開港ノ丁ヲ決スル事アタハ
スト

提督ノ曰然ラハ琉球ハ余等彼地ニ行キ交接シ
テ之ヲ開クヘシト

高官ノ曰松前開港ノ丁ニ遠隔タル地ニシテ且
諸候ノ管轄ナレハ今倉卒ニ之ヲ議スル丁アタ
ハ不故ニ明春マテニ此事ヲ論定シテ以テ余等

ヨリ足下ニ復答スヘシト
提督ノ曰然レ氏貴国既ニ我合衆国ト和親ヲ結
ヒタレハ我鯨澳等ノ諸船松前ノ沿海ニ航スル
時ニ當テ彼地ニ至ルモ敢テ害アルヘカラスト
此問答既ニ終リタレハ日本ノ高官又長崎ノ了
ヲ列テ告テ曰長崎港ハ原来日本ニテ外国ト交
通ノ為ニ開キタル港ナレハ其土人ノ風習及レ
其制度モ自ラ外国ノ形勢ニ移リ和蘭人等モ皆
其便ヲ称セリ貴国ノ船舶モ此港ニ行テ事ヲ謀
ラハ諸事極メテ便利ナラン假令今ヨリ新ニ他

ノ海港ヲ開クトモ其風習人情素ヨリ外国ト相
同シカラサレハ諸事急ニ其便ヲ得ニ至ラン
甚々難カルヘシ夫今足下ヨリ請フ所ノ他ノ海
港ヲシテ外国人ノ風ニ則シメ長崎ノ如クナラ
シメント欲セハ必ス五年ノ歲月ヲ經ヘシト提
督ノ曰長崎ノ土風能ク外国風ニ化シタルハ余
カ既ニ能ク知ル所ナリ夫長崎ノ土人ハ久シク
和蘭人ト通商シテ和蘭ヨリ稍西洋ノ国風ヲモ
知リ然レ氏若長崎人等和蘭人ト交通スル形勢
ヲ以テ合衆国人ヲ待ツ時ハ合衆国ノ人豈能ク

之ニ堪ル者アランヤ且日本人等亞人ヲ待ニハ
宜ク寛大ノ法ヲ施シテ以テ和蘭人トノ交接ニ
反スヘシ而シテ假令今寛大ノ処置アルモ長崎
ハ古来ノ港ニテ余カ請フ所ノ者ニ非サレハ宜
ク他ノ港ヲ開キ賜フヘシト○提督又日本高官
ニ告テ曰我レ日本沿海ニ於テ凡五港ヲ開カニ
事ヲ望メリ然レモ今急ニ開クヘキハ先三港ニ
シテ足ヌヘシ三港トイヘルハ日本嶋内ニテ浦
賀若クハ鹿見島ノ一ヲ開キ松前島ニテハ箱館
港ヲ開キ琉球島ニテハ那覇港ヲ開クヘシト○

日本人百有議論ヲ設ケ余等ヲシテ長崎港ニ行
シメント欲スレモ余等モ亦敢テ之ヲ肯ンセサ
レハ其ノ成就スヘカラサルヲ察シタリ少シ
是ニ至テ高官又曰足下等ハ實ニ長崎ヲ好マサ
ルト見タリ然ラハ今他ノ一港ヲ開クヘシ然レ
夫浦賀ハ此内海ノ咽喉ニテ日本船屢往來シ甚
タ不便ナレハ此港ヲ開テ下田ヲ開クヘシ而シ
テ琉球ハ我屬地ナレモ遠隔タル島ナレハ今此
地ニ在テ開港ノ事ヲ議シ難シ松前ノ事ニ於ル
モ亦然リト日本人ハ謾リニ如此キ議論ヲ設ケ

以テ琉球及ヒ松前ノ開港ヲ避ント欲スレモ提督敢テ之ヲ肯ンセス論シケレハ日本高官之ニ屈シ暫ク坐ヲ退キテ他ノ官人等ト察議シ再ヒ其坐ニ復テ曰松前ノ地ハ原来日本ト隔絶シテ我地ニ屬セス其地自ラ又君主アリテ開港等ヲ了ラ制セリ故ニ余等モ亦倉卒ニ其国内ノ了ラ議スル了ラ能ハス何レ此君主ト精ク會議シテ了ラ決スヘシ且此議論ヲ決スルニハ大約一年ヲ費スヘシト此時提督イヘリケルハ余此了ラ報復ヲ得サル時ハ実ニ帰国スル了ラアタハス若足

下ノ言ノ如ク松前ノ地ハ實ニ貴國ニ屬セスシテ獨立ノ國ナル時ハ我直ニ松前ニ往テ自ラ其君主ニ會シ應接シテ其開港ヲ議スヘシ何ノ無益ニ足下等ノ議論ヲ煩ハサント是ニ於テ日本高官等大ニ患フル体ニ見タリシカ種々密談シテ後復出テ来リテ来ル第三月廿三日ヲ期シテ松前開港ノ了ラ是ヨリ報セント約シタリ又此日ノ決議ニテ後來ハ下田ヲ以テ兩國應接ノ地ト定ムル了ラナレリ是ニ由テ亞米利加官吏兩名日本高官一名ト共ニ下田ニ赴キテ其地ヲ檢

索ニ此港若シ不便ナラハ下田ノ代リニ日本南
海岸ニテ一港ヲ開ント約シタレハ提督急ニハ
シタリトハントシ兩船ノ將官ニ命シテ下
田ニ行シメタリ○此翌日本士官二人森山栄之
助ヲ携ヘホトムタン船ニ来リビツランカノ神奈
川ニ上陸セシトニ就テ亞国將官ト會話數刻ニ
及コテ後歸リ去タリ此士官ノ歸後提督命ヲ下
シコルト氏製式ノ手銃及ヒ亞国ニテ製シタル
高價ノ數品ヲ以テ榮之助ニ與ヘシメタリ此日
ノ應接ノ語次ニ亞人日本士官ニ向ヒ問ケルハ

魯西亞人前ニ長崎ニ来リテ貴国ニ通信貿易ヲ
請タリシト聞シカル後如何ナリタルヤト日本
人ノ曰我國ニテハ今貴国ト新ニ交接ヲ約セシ
外ノ未交通ヲ為セル國アラスト亞人ノ曰兩三
年ヲ過ナハ魯国トノ交通モ必整フニ至ルヘシ
然レ共日本國王ハ諸國ヨリ通信交易ヲ請ヒ来
リテ辞スルニ由ナク其應答益繁劇ニ堪サルヘ
シト日本入ノ曰魯国トハ未曾テ交通ヲ約セサ
レヒ前ニ長崎ニ到着セシ時薪水ノ缺之ヲ許ヘ
タルヲ以テ之ヲ與ヘタリ魯船来着ノ主意ハ彼

カ國界ト我奥蝦夷ノ封境トヲ定メントノ一トニ
テ交通ノ度ニ非スト○萬三月廿三日ニナリク
レハ前ニ論セシ所ノ松前ノ開港ニ由テ日本高
官ヨリ使者ヲホシハタシ船ニ送り提督ニ一層
ヲ與ヘヌレハ之ヲ闕セシニ
北亞米利加合衆國ノ船船若薪水食料等ノ
歛乏アラハ蝦夷並ニ箱館ニ於テ其歛乏ノ
物貨ヲ請フノミハ敢テ害アラストス然
レ凡此物貨ヲ与フルニハ先其設ヲ為サレ
ハ直ニ開港スヘカラス故ニ明年七月我ハ百

五十五年嘉永九月
十七日ニ當ル月
ヲ期シテ箱館ノ開港ヲ始
ムヘシ

日本高官ノ命ヲ奉シ森山栄之助之ヲ記
ストアリ

嘉永七年二月 我千八百五十四年
三月廿三日ニ當ル

提督箱館開港ノ一ニ就テ今此眷簡ヲ得タレハ
依然トシテ大ニ悦ビケリ而シテ箱館港ヲ開ク
一ノ整ヒシハ提督日本行中ノ一大功ナリ此一
ヲ以テモ既ニ兩國ノ和親遂ニ整ヒテ盛ナルニ
至ルヘキヲ前知スヘレ提督今日本高官ヨリ告

ワ来レル明年七月トイヘルハ一年餘ノ歲月ヲ
経ハ之ニ先ツテ此港ヲ開カシメテ切ニ日本人
ニ促シタリ

